

---

# 最後に見た空は茜色 last sky

茜ガク

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

最後に見た空は茜色 last sky

### 【Nコード】

N9399V

### 【作者名】

茜ガク

### 【あらすじ】

高校生である主人公の哲朗がいきなり同じクラスの川島にデートに誘われ付き合っことになった二人に悲しい出来事がおこることに！！

夏休みの最後の日俺は大事な人を失った。

夏休みの中盤俺はいつも通り音楽聴きながら宿題をやっていたら知らない番号からの電話がかかってきた。

「はい、もしもし」

「哲朗くんだよねあたし同じクラスの川島だよ知ってるかな？」

知らないも何もクラスの川島といったらクラス一番に美人でかわい  
いと言われている奴じゃないかいビツクリだ。

「ああ、どうしたんだ」

「急だけど明日時間作ってくれない？」

俺はわかったと返事をして電話を切った。

次の日呼ばれた理由も知らないまま待ち合わせ場所で川島を待っ  
ていた。

「ごめんね、服を選んでいると遅くなっちゃった」

そんな全然川島の為なら待つにきまつてるじゃないかと心のなかで  
は思っていた。

「じゃ行こうか」

と行って俺の手をつかみ水族館や買い物に付き合わされた。だけど  
俺は嬉しかったもしかしたらこれってデートなんかじゃないのかい  
？いや絶対そうだ。最後に向かったのが家の近くの公園だった。

「あたしね哲朗君のことが好き」

俺は何がなんだかわからなかったが俺も好きと反射的に言っ  
てしま  
った。

「じゃあ付き合おうってことでいいんだよね」

それから数日経ちとうとう夏休みの最終日電話で川島に呼ばれた。

「ごめんね、夏の最後に花火でもと思って」

その日は花火大会だったのだ。しかし川島の浴衣姿は一段とよかつ

た。そして花火が終わって帰る途中だった。

「哲朗展望台にいこ」

そういつてまた俺の腕掴んで展望台につれていった。その日の空は今までで一番茜色に染まっていた。

「哲朗いつまでもあたしのこと忘れないでね」

川島は笑いながら言っていたが俺にはなにか悲しそうな顔にも見え  
た。

「忘れるものかバカ」

そして川島は一言好きと呟きキスをした。

次の日俺は学校からの知らせで川島が昨日帰る途中で事故にで亡  
くなったことを知った。

それから一年後その日と同じ花火を見てそして最後に川島と言っ  
た展望台に行った。

「川島今日も綺麗な茜色だな」

俺は今はいない川島に向かって呟いた。すると俺は一年前のことを  
思い出した。

一年前に川島と最後に見た空は今までで一番綺麗だったことを思  
い出して俺はその場で泣き崩れた。

(後書き)

よくある展開で短編の内容なのであまり面白くなかったかもしれないですけど次回作も是非読んでください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9399v/>

---

最後に見た空は茜色 last sky

2011年10月9日15時06分発行